

Hiroshima
And
Nagasaki
Process

プロジェクト
ヒロシマ・ナガサキプロセス
～核兵器廃絶までの現実的・具体的なロードマップ～

児玉克哉

I. 世界市民の手で核兵器をなくす

はじめに

最近、世界平和を考える上で心強い大きな流れが感じられるようになりました。その最初の例は「対人地雷禁止条約」です。この条約はNGOやミドルパワーと呼ばれる国々の力で成立したといわれます。その後、クラスター爆弾禁止条約においても同様なプロセスによって、実現されました。

これまでアメリカやロシアなど軍事大国に軍縮の主導権を預けていたのでは、平和・軍縮への道を切り拓くことはほとんどできませんでした。しかしオタワプロセスやオスロプロセスは、ミドルパワーやNGOが中心となって、軍事大国を包囲する形で国際条約の実現が可能になったのです。

「軍事国主導の軍縮交渉から、地球市民主導の軍縮プロセスの設定へ」時代は大きく変化しています。核廃絶への道が大きく拓けてきました。

■ 対人地雷禁止条約 オタワプロセス

■ クラスター爆弾禁止条約 オスロプロセス

Ⅱ. これまでの動き

A) 核兵器禁止条約へのプロセス

モデル核兵器禁止条約

1996年4月「モデル核兵器禁止条約」が、核兵器の廃絶を求める各国の法律家、軍縮の専門家、医師及び活動家らが参加する3つの国際NGOから構成されるコンソーシアムによって起草され、その動きが注目されました。

このモデル核兵器禁止条約は、開発（development）、実験（testing）、製造（production）、備蓄（stockpiling）、移譲（transfer）、使用（use）、威嚇としての使用（threat of use）にわたって、核の取り扱いを禁止するものです。

まさに「モデル」というべき理想型が書かれています。

Ⅱ. これまでの動き

B) 非核兵器地帯条約の動き

これまでに署名された非核兵器地帯条約には、南極の軍事利用の禁止、南緯60度以南の地域におけるすべての核爆発及び放射性廃棄物の処分の禁止を定めた南極条約のほかに次のようなものがあります。

- ・トラテロルコ条約 中南米
- ・ラロトンガ条約 南太平洋
- ・バンコク条約 東南アジア
- ・ペリパнда条約 アフリカ
- ・セメイ条約 中央アジア

こうした条約の動きのほかに、モンゴルは1992年国連総会にて、オチルバト大統領が「モンゴル非核兵器地位宣言」を発表しました。

Ⅲ. ヒロシマ・ナガサキプロセス

ヒロシマ・ナガサキプロセスは、核兵器廃絶を目指すためのいくつかの国際条約の制定を行います。被爆者団体を含む国際NGOや非核保有国が中心となって、核兵器を禁止する総合的なプロセスの構想です。

- A) 核兵器使用・威嚇禁止条約の制定
- B) 核兵器開発禁止条約の制定
- C) 核兵器廃絶条約の制定
- D) グローバル非核地帯条約

グローバル非核地帯運動を、

核兵器使用・威嚇禁止条約

→ 核兵器開発禁止条約

→ 核兵器廃絶条約の流れ

と組み合わせることによって、核兵器廃絶の流れをつくることができます。
この総合的な過程がヒロシマ・ナガサキプロセスです。

IV. 具体的な進め方 1

A) 一般社団法人社会貢献推進機構 「ヒロシマ・ナガサキプロセス推進委員会」

一般社団法人社会貢献推進機構内に「ヒロシマ・ナガサキプロセス推進委員会」を設置し、国際平和研究学会などとも連携して、地球的な運動展開に取り組んでいきます。ホームページ（英語・日本語）を充実させるととともに、スペイン語・中国語・ロシア語・フランス語・アラビア語などにも対応できるようにして、情報発信をします。

IV. 具体的な進め方 2

B) 国内・国際ネットワークの形成

下記をターゲットに、メール・郵送・FAXなどで情報を提供するとともに、ネットワークの形成を図ります。同時に募金活動も行います。

- 被爆者団体
- 国会議員
- 国内NGO（平和団体）
- 国内研究者
- 国内マスメディア
- 世界の主要な政治家
- 世界の主要なNGO（平和団体）
- 世界の主要な研究所・研究者
- 国連組織・国際機関
- 世界のマスメディア

IV. 具体的な進め方 3

C) 国際会議などの開催

ヒロシマ・ナガサキプロセスの展開に関わる国際会議の開催を企画し、運営支援をしていきます。趣旨に賛同して、協力してくれる都市であれば世界のどこでもいいのですが、重要な会議は広島市と長崎市で開催を模索します。

D) 国連や政府への働きかけ

国際条約の締結を目指すものですから、国連や政府への働きかけも積極的に行います。

参考事項



玉克哉 Katsuya KODAMA

専門は地域社会学、市民社会論、NGO論、国際平和論、マーケティング調査など。国際平和研究学会事務局長〔2000-04年〕として、世界の平和研究の中心的役割を担い、2010年より再度、事務局長就任。また2006年エジプトで開催されたISSC総会にてユネスコに本部を置く国際社会科学評議会の副会長に選出され、2010年から12年までは理事。グローバルな視点から社会科学の発展に寄与しています。核兵器廃絶へのプロセスをうたう「ヒロシマ・ナガサキプロセス」を提案し、世界的な運動を繰り広げています。

国際平和研究学会 IPRA (International Peace Research Association)

1964年に設立されたもので、平和研究者の世界的な学会としては、現在のところ唯一のものです。1989年にはユネスコ平和賞を受賞するなど、世界的にも認められた学会で、ヨハン・ガルトゥング、ケネス・ボールドィング、エリーズ・ボールドィング、リチャード・フォーク、チャドウィック・アルジャーなど著名な研究者たちが中心メンバーでした。現在事務局は三重大学に移っています。オーストラリア・シドニーで開催された国際平和研究学会会議にて児玉克哉（三重大学）とJake Lynch（シドニー大学）が事務局長に選出されました。

現在会員は約1600名で、5つの地域の平和研究学会を持ち、世界的な平和研究者の組織となっています。5つの地域平和研究学会は、北米；COPRED、南米；CLAIP、アジア太平洋；アジア太平洋平和研究学会、ヨーロッパ；平和研究学会、アフリカ；アフリカ平和研究学会です。